

# 社会的認証システム－第三者認証(ステップ3) 審査シート

団体名: 特定非営利活動法人JIPPO

訪問調査日: 2011年12月8日(木)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款やパンフレットに明確に示されており、ホームページでも広く公開されている。非営利組織としての位置付けがパンフレットに掲載されている活動内容や決算報告書からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、「フェアトレードの実施」や「スタディーツアーの企画・実施」が行われている。また、今年度においては、東日本大震災への支援活動を行う等、積極的な公益活動の推進状況が見受けられる。	19/24 達成率 79%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中期的なヴィジョン・計画の策定は、組織内で現在検討中である。単年度事業計画の策定状況が確認ができ、広く公開されている。事業計画は、事務局および理事会において合意形成を図りながら策定されている状況を確認することができた。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	理事会の構成メンバーが、運営母体である西本願寺の役員と連動しているため会議等が形式的になる傾向があり、本来的意思決定機関という意味において課題認識がある。逆に決裁プロセスは明確に示されており、ガバナンス体系が確立している。運営上必要となるコンプライアンスの把握や法人内周知、研修への参加等の取組みに対する課題がみうけられる。法人の経営環境は一定程度把握・管理されており、内部監査が実施されている。	26/43 達成率 60%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	経営計画書は策定されていない。財源は、運営母体からの支援だけではなく、多様な財源確保に努力されている状況が見受けられる。納税等は納税証明書からも適切に行われている状況が確認できる。	
	[3]職員と労働環境	就業規則・給与規定等必要な規定が整備されている。法人独自の退職金制度を設け、法定福利厚生外の取組みが見受けられる。労働契約書において雇用形態別に整理し、適切な労働環境の構築に努めている。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	事務所機能は明確であり、決められた時間帯(9:00~18:00)において、いつでも電話・来所対応が可能になっている。登記事項の更新、所轄庁への報告等、必要な手続行われており、事務所に保管されている状況が確認できる。	30/31 達成率 97%
	[2]会計全般	全ての金銭管理は「JIPPO経理規定」に基づいて適切に管理されている状況が確認できる。会計事務所の勤務経験者が担当者として管理している。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	単年度事業計画に基づく事業の確実な推進状況が見受けられる。事業の執行状況は、事業報告書を作成して報告している。稟議書等組織決裁ルールが確立し、適切に運用されている。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	龍谷大学等からボランティアの受入れ状況が確認できる。「スタディーツアー」が京都女子大学の科目として単位化されている他、きょうとNPOセンターや関西NGO協議会等との協働実績が見受けられる。他セクターとの協働実績は確認できない。寄付等は常態的な実績が確認できる。	8/16 達成率 50%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	情報の公開は、ホームページや年4回発行している「会報(1,000部)」等で行われている。組織の基礎情報を公開し、事業報告等フロー情報についても適切に更新されている状況が確認できる。	15/18 達成率 83%
	[2]第三者による評価	一定の審査を経て、京都府国際センターに登録している。中央共同募金会等からの助成実績も確認できる他、新聞等ようなメディアへの露出が確認できる。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	書類やデータ等は適切に管理されているが、規定の見直し等に対して課題認識がある。個人情報の保護等に関する規定は確認できない。	6/18 達成率 33%
	[2]組織の社会的責任の追求	学生に対する事前研修を行う等「スタディーツアー」実施に対するリスク管理が行われている。「環境保全」等理念は表明されているが、より具体的な取組みが期待される。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 JIPPO(十方)は「すべてのものは互いに関係しあい支え合っている」という仏教の理念に則り、浄土真宗本願寺派を母体として2008年11月に設立した国際協力活動を行うNPOです。いのちの尊さにめざめる一人ひとりがそれぞれのちがいを尊重し、ともにかがやくことのできる社会を実現することを目的として、「平和の構築」、「貧困問題」「環境問題」の解決、被災地域における「救援・復興」等に関する事業を行っています。例えばフェアトレードを通じたスリランカや東ティモールの農村支援は、ただ商品を販売するだけではなく、生活改善のための事業やスタディーツアー等と組み合わせて複合的に展開しています。また国内では野宿者支援を継続的に行って来ました。2011年度は、東日本大震災復興支援事業として南相馬の子どもたちの野外活動を応援。「長野・京都・富山で過ごす夏休み」を実施し、福島原発事故の影響で野外活動が制限されている子どもたちに野外でのびのびと過ごしてもらい、京都の市民との交流も図りました。JIPPOが大事にしているのは、現地の人々との顔の見える付き合い、関係性を築きながら事業を行うことです。事務局は、龍谷大学名誉教授の中村尚司専務理事を中心に、アットホームな雰囲気運営しています。設立3周年を迎え、活動実績も確実に増え評価を得ていますが、役員体制など組織環境に課題があります。今後は活動成果をもっとアピールし、広く評価される団体になるよう努めていきたいと考えています。  本法人は、浄土真宗本願寺派の宗務総長が理事長を兼任する等、宗派の組織的スケールメリットを活かした特徴のあるNGOであり、組織的にも大変安定感のあるシステムの中で運営されている状況を見受けられます。しかし、法人としてすでに認識されているように、意思決定にかかる役員の継続性に課題が見受けられ、今後事業を発展的に運営していくうえにおいて、検討・改善を進められていくことが重要になってきます。事業の実施にあたっては、有意義にミッションの具体化にむけて着実に活動実績を積み重ねていますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			104/150 総合達成率 69%